

## 陶芸作品に思いを込めて

「受賞の連絡をいただいたときは驚いたと同時に、家族や周囲の方が自分のことのように喜んでくれて、とてもうれしかったです」と受賞の喜びを話す成澤英世さん。幼い頃から、裁縫や編み物、染め物など、自分の手で何かを作って生み出すことが好きだったと言います。

「陶芸を始めたきっかけは、5年前、市民活動センターで開催している陶芸教室に母が通っていたことです。母が作った作品を見て興味が湧き、一緒に参加するようになりました。いろいろな方の作品を見て刺激し合えたので、とても楽しかったですね」と話します。そんな中、「大きな作品を作ってみたい」と思い始め、昨年から本格的に、市内の陶芸工房に通うようになりました。

自分で体験したことや行った場所、そこでの思い出を作品で表現しているという成澤さん。

「今回新人賞を頂いた作品は、娘と洞爺湖畔のひまわり畑を見に行き、しゃぼん玉で遊んだ光景をオブジェとして表現したものです。5カ月かけて形にしました」と話します。



▲表彰式で授与された盾と受賞作品とともに

高さ45センチ、使用した粘土20キロの大作は、『すかし』や『彫り』『立体』などの細かい細工で、大小のヒマワリが多彩な表情を見せるよう工夫を施しました。

## 自分らしい作品を作っていききたい

「陶芸は、高温で焼いたときに割れてしまうことがあるほか、化学反応で色が付くので、焼きあがるまでどのような色になるかわからない緊張感があります。その反面、無事に焼きあがったときには達成感を感じますし、出来上がりを待つわくわく感も楽しむことができますね」と陶芸の魅力を話します。

今後も自分らしい作品を作り、陶芸に馴染みのない方にも興味をもってもらえたらうれしい、と話す成澤さん。きょうも、作品制作への意欲にあふれています。



昭和56年、登別市生まれ。33歳。

室蘭東高校（現、室蘭東翔高校）を卒業後、室蘭市内の銀行に勤務。平成20年に退職後、エステやネイルの勉強を始め、現在は、お店を経営するかたわら陶芸に意欲を注ぐ。

# きらり

KIRARI

なり さわ ふさ よ  
**成澤英世**さん（幌別町）

5月から7月にかけて募集が行われた北海道陶芸協会主催の『第44回公募展・北海道陶芸展』は、出品者の個性豊かな作陶技術の習熟と向上・相互の切磋琢磨を目指し、陶芸文化の活性化と進展に寄与しようとするもので、道内外からの応募を対象とした北海道唯一の公募による陶芸展です。

同陶芸展に出品した『ひまわり畑としゃぼん玉』と題したオブジェの作品で99点の応募作品の中から見事、新人賞を受賞した登別市在住の成澤英世さん。7月25日(土)には、札幌市で行われた表彰式に出席しました。

今回は、作品に込めた思いや陶芸の魅力、受賞の喜びなどを成澤さんに伺いました。

## 思い出を作品で表現することがとても楽しい。